

第十一章 瓦解

平成二一年度の三年生

仲野（江平） 一瀬（小ヶ倉） 赤島（式見）

一 ドロップアウト

平成二一年度の三年生は表記の三人に小田と小佐々を加えて五人居るはずだった。この二人は戦力としても上級生とともにウィンターカップには出場しているので、当然平成二一年度のチームの主力として働いてもらわなければならない。しかし、この二人は年が明けた九州春季選手権大会の県下二次予選終了後に辞めた。そうなるに残された選手たちではチームを支えきれない。チームは一気に瓦解へと向かっていった。

だが、チームを瓦解へ向かわせた張本人がこの二人だということを言いたくて私はこの件を取り上げたのではない。瓦解へ向かう兆候はすでに平成十八年度にあった。素質に恵まれた選手がいなかったなどという理由ではなく、チームに漂う空気がそうだったのである。

それに拍車をかけるように主力選手にケガが相次いだ。昨年はインターハイとウィンターカップに出場することができたが、昨年のチームですら平成十八年度から漂っていた空気感は払拭できていなかった。今年度はそれに加えて選手層がガクンと薄くなった。そんなチームの屋台骨を支えなければならない重圧が、小田と小佐々にのしかかったのである。それだけならまだしも、私の口から出る辛辣なことが毎日彼女たちの心と身体に突き刺さる。小田や小佐々に限らず、誰でも身が保たなかったであろう。

ともあれ、私の鶴鳴学園辞任へのレールはこの時点で敷かれた。いや、平成十八年度に作られた着工計画が、この時点から本格工事として着手されたと言っても過言ではないだろう。

平成二〇年一〇月 地区新人戦 四位 スタメン 仲野② 小田② 小佐々② 峰① 泉田①

【案内文書】

現二年生と一年生はガード陣も手薄ですが長身者に関してはもっと手薄です。県内に長身者がいないわけではなかったのですが、県内の長身者の中で勧誘活動したのはこの二年間で一人だけ。その選手の獲得は成らず、他は勧誘しても応じてくれそうな選手がいなかったのが県外に目を向けました。結果はことごとく断られ、二年連続小さい選手ばかりになってしまいました。現在の中学三年生が来春入学してくるまで一人の部員で戦わなければなりません。厳しい冬になりそうです。

三年生は「新チームは大丈夫かなあ」と心配そうな顔をしています。私が私は平常心です。もうこの歳になると、全国上位を狙えそうなチームを持つても、県内ですら優勝するのが難しそうなチームを持つても、チーム創りにかける気持ちは何も変わりません。むしろ今年のようなチームを持つてば「さて、これをどういうふうに色づけしようか」と、楽しむ気分さえ心の何処かにあります。

このチームを観察し続けてきた結果、私は九月中旬に「今年のチームにはドライブインと三点シュートだけでなく、クイックストップジャンプシュートを身につけさせなければならないなあ」と思い、ずっとそれを強調し続けながら指導を続けています。

クイックストップジャンプシュートなんて、ずっと昔から知っているし教え方も知っていますが、これまで個人レベルでしか強調したことがなく、チーム全体として考えたことはありませんでした。バスケットのコーチを四五年も続けています。もう六六歳です。でも、今更こんなことを考えなおしているなんて：いつになったらコーチとしての合格証を貰える（誰から？）のでしょうか。

平成十五年の長崎インターハイの時に私は六一歳でした。鶴鳴は公立高校と同じように六〇歳が定年ですが、私は長崎インターハイのために六一歳まで務めさせてもらいました。長崎インターハイが終わった後、

今度は短大に籍を置き、短大の授業が終わってから高校で部活動の指導をするようになりました。私と同年代の人たちは、公立私立を問わずほとんどの人が現役を退いておられるのに、私はまだ現役を続けさせてもらっています。本当にありがたいと思っています。

県協会の理事長職は一期(二年)のみ引き受ける、少年女子の監督は平成十八年度をもって降りる、という私の意思は私の思いの届かないところで動かされている部分がありますが、鶴鳴のバスケット部指導はもうしばらくやらせてもらえるようなので、残るエネルギーを全部放出して長崎国体を成功させるためのお役に立ちたいと思います。

【結果報告】

初日

主役をやったことがあるのは小田だけ。他の選手はこれまでまったく重要な役どころは貰ったことがない選手ばかり。そんな選手たちが「さあ今日からお前たちが主役だ」と言ってコートに送り出されても心臓バクバク、まるで雲の上を歩いているような気持ちだったはず。

バレーボールの地区新人戦とバドミントンの地区新人戦に顔を出して、バスケットボールの二回戦になんとか間に合った柳川校長からハーフタイムに「山崎先生今日は優しいですねえ」と言われましたが、初めて主役を貰って心臓バクバクの選手たちを叱りとばしても、かえって萎縮させるだけで何一つ得るものはありません。じつとがまんの日でした。でも不思議なものですねえ、そんな選手たちでもコート上で展開するプレイはやっぱり鶴鳴スタイルなんです。門前の小僧習わぬ経を読む。こどもたちにとって育つ環境がいかに大切かということを感じました。

二日目

門前の小僧も相手が格上になると覚えたお経をことばにすることができません。口をパクパクしているだけで声に出せないのです。これを力の差というでしょう。私は、目の前を右往左往している選手たちを見ながらサミュエルウルマンの「若さとは」というエッセイを思い出していました。

人が若くあるためには、強い意志力と、優れた構想力と、激しい情熱が必要であり、小心さを圧倒する勇氣と、易きにつこうとする心を叱咤する冒険への希求がなければならぬと説いています。さらにウルマンは、人は歳月を重ねたから老いるのではなく、理想を失う時に老いるのである。心配、疑い、自己不信、怖れ、絶望、これらのものこそ成長しようとする精神の息の根を止めてしまう元凶であると言っています。

しかし、ウルマンのような生き方ができるようになるには、選手が自分の身の回りから「これなら私にもできる」というものを見つけ出して取り込まなければなりません。それを手助けするのが今年の私の重要な務めだと思っています。またアンテナを増やさなければなりません。

【戦評】

純心戦

地区新人戦というのは「おーっと危ない」とか「エーッ、そこでそうやるか？」というプレイが続出する。個人的にもそうだがゲームの流れも同じだ。すいすいリズムよくプレイを続けているかと思えばパツパツプレイが止まって点が取れない時間帯がしばらく続くことがある。試合を運営するのではなく、試合に振り回されているからこうなるのだ。が、それでも地区新人戦というのは観ていて楽しい。初の晴れ舞台に臨む選手やそれを応援する身内の新鮮な気持ち会場内に溢れているからだろう。

長商戦

今年の地区新人戦のスタートは、選手層の厚い長崎西と昨年から下級生が主力だった長崎商業の二強が他に大きく水を空けて先行している。これに続くのが純心と鶴鳴だが、純心はまだしも鶴鳴と二強の距離はかなり遠いようだ。さて来月の県新人戦、冬休みの強化練習、一月のエイト大会、春休み強化練習を経て来年四月までに鶴鳴の選手たちの目付きがどう変わってくるか、じっくり観察してみたいと思う。 文責 山崎

【案内文書】

地区新人戦以前の段階では、小田・小佐々・峰・上瀧は固定。あと一人が決まりませんでした。地区新人戦が近付いたある日、私は「あとの一人を誰にすると思う？」と、三年生に聞いてみました。が、私の意中を言い当てる選手はいませんでした。「泉田だよ」と言い、私はその説明をしました。

「あのな、コートに送り出す選手の最優先条件は、相手にとって脅威となる選手なんだよ。泉田は残った選手の中ではその条件を満たしているからさ」

脅威になる選手とは、「あ、シュートを打たれるかも知れない」とか「油断しているとボールを奪われるかも知れない」と相手に思わせる選手のことです。泉田は「シュートを打たれるかもしれない」と相手に思わせる条件だけは他の四人より優れています。しかし現段階では足は遅いしディフェンスは普通のザルではなく、穴が空いたザルみたいな選手です。他に、ディフェンスは泉田よりもいい、走るのは泉田よりも遙かに速いという選手はいます。しかしシュートに向かわないならばそれらの素質も相手にとって脅威にはなりません。というわけで泉田登場となったわけです。

地区新人戦の最終戦（長崎商業との三位決定戦）からスタメンを変えました。上瀧を下げて一瀬にしたのです。理由は、上瀧のプレイは部分部分を取り上げると巧いのですが、ゲームになると緩急・強行・回避の基準がまったくわからないのと、この身長（一四九cm）でこのスピードでは今は使えないからでした。

地区新人戦後の練習で、今度は峰がスタメンから降ろされて仲野が入りました。峰は場面が良ければアウトサイドのシュートがよく入るから使っていたのですが、他人が場面を作ってくれなければシュートは打てません。シュートを打ちたければ強いドライブを武器として持たなければなりません。しかし峰はその課題を解決していません。なので降ろしました。両者とも早いカムバックを期待しています。

今の鶴鳴で、相手にとっても脅威に成りうる選手は小佐々です。しかしこの二年間、彼女は相手の脅威に成りえていません。これまで再三再四「シュート打てよ！」「抜けよそんなの！」と言い続けてきました。が、彼女はそのことに向き合おうとしませんでした。バスケットセンスはチーム随一、インサイドフエードアウェイシュートが打てる（女子ではなかなかいません）、パスの読みが深い、なのに他の選手にプレイを譲ってしまうのです。「オーイ、そろそろ目を醒ませよお」

ベルリンの壁のように、誰かがそこにツルハシを打ち込めば、鶴鳴バスケットを遮っている壁もみんなが寄ってたかって崩し始めると思います。その先陣を切るのが誰なのか、注意深く選手の一举一動を見守っているところです。先陣を切る選手が自然発生しなかったら、私が仕掛けなければなりません。

【結果報告】

初日

使える人間とそうでない人間―使える使えないを、選手としてとかマネージャーとしてとかだけでなく、営業マンとして、会計係として、親として、担任としてなどなど、あらゆる分野で何かの役目を担った人間として使えるか否かという意味で用いたとして、使える使えないの差を簡単な言葉で言い表せば客観的か主観的かの違いによると私は思います。

使える選手は、シュートもパスもドリブルも、誰もが「ウンウン」とうなずくプレイをします。

使えない選手は、他人が「エーツ！そこでそんなプレイをするのお？」と思うようなプレイをします。

使える選手は、「お前ここを直せばもっと活躍できるよ」と言えばそこを直そうとします。

使えない選手は同じ指摘をしてもなかなか直せません。

使える選手は、自分を第三者の立場から見ることができるので、指摘されたことが直ったかまだ直っていないかをチェックすることができます。

使えない選手は、自分を外側から見ることができないので直ったかまだ直っていないかをチェックすることができません。

使えない選手の中には「私はがんばっているのにコーチは私ばかりを叱る」と、自分の思いの中のにがたくさんあります。

訓練とは、使えない選手を使える選手にする作業のことです。五ヶ月後の春季選手権では果たして何人使える選手になっているでしょう。

二日目

今日の鶴鳴の選手たちは、ウルマンが「成長しようとする精神の息の根を止めてしまうのがコレだ」と指摘している自己不信や恐れに翻弄され続けました。でも、県大会でベスト四を維持しました。今の選手層からしてこの結果はアッパレだと思います。もともと自分を追いつみ、来春新入生を迎える時に「いらっしやい」と、胸を張って言える自分自身を築き上げてもらいたいと思います。

三日目

大差で負けました。が、ぶざまな試合ではありませんでした。これから少しずつ成長して、鶴鳴の試合を観るために会場に足を運んでくれる人たちを増やしましょう。

【戦評】

長崎西の山田の成長が光った。彼女は六月の県高校総体で膝の内側副靭帯を傷めた。体格に恵まれていただけにケガをするとその部分にかかる負担は小柄な選手より大きい。久々の全日本クラス出現か？という期待がこのケガで暗雲に覆われた。が、今大会でその心配は払拭された。

これまでの長崎県出身の女子全日本選手を挙げてみよう（ジュニアも含めて）。清水（鶴鳴↓勸銀）・熊谷（鶴鳴↓共石）・原田（鶴鳴↓共石）・濱口（鶴鳴↓JOMO）・永田（純心↓シャンソン）・花田（鶴鳴↓JOMO）・中川（純心↓桜花↓シャンソン）・林田（鶴鳴↓拓大↓シャンソン）の八人。山田は間違はなく九人目に入る。山田に劣らず平田（長崎西）もなかなかの逸材だ。今年から来年にかけてこの二人から目が離せない。

文責 山崎 純男

【正月合宿】於 九州女子

平成二二年〇一月〇三日〜〇五日 対戦 宇部慶進・徳島城北・札幌創成・九州女子・倉敷翠松

神村学園

試合数 二〇本（二〇分×十九 一〇分×一）

勝 敗 二勝十八敗

出場時間 小田三六一分・小佐々三三三分・仲野一二二分

一瀬九二分・峰三一分・上瀧二一分・泉田一二八分

岸上桜九七分・酒井一〇六分・赤島美二四七分

小林二〇八分・岸上藤一五二分

コメント

今年黒星が多いのは仕方がない。メンバー層が薄いからだから。しかし、弱いとは言っても鶴のマークを胸につけた伝統校の選手なのだ。主力選手にはその自覚がなければならぬ。にもかかわらず、今年の主力選手たちは選抜大会後の休暇の間にまったく身体作りをしないでこの合宿に臨んだ。

スポーツ経験のある人はわかるだろうが、練習をずっと休んでいて久しぶりに開始した時は、最初は調子いいが少し時間が経つと血糖値の調節がうまくいかず、パフォーマンスが急速に低下する。今回の主力選手の動きがまさにそれだった。午後の部に入るとバタツと足が動かなくなり、相手に対して申し訳ないほど覇気のない試合しかできなかった。それが5日の午後までずっと続いた。

十一月の県新人戦ではなんとかベスト四に食らいついた。今年のチーム力からしてよくやったと思う。この時点で今年の主力選手たちは自分たちのことを「よく踏ん張った」と自己評価し、「なんとか伝統をつなぎたい」と思わなければならなかった。弱いと自覚しているならば先輩たちよりも何倍も自分を追い込み、

自分をいじめなければならなかった。スポーツは弱いからダメ、強いから立派というものではない。強くてもダメチームはたくさんあるし、弱くても立派なチームもまたたくさんある。大切なのはどんな思いをもって取り組んでいるかだ。

正月合宿は自チームの試合がない監督が交代で審判をすることになっている。私は年間を通じて自分を鍛えているが、今回は連日の審判業務に耐えるために、選抜大会から帰ってきた翌日の二日から二日まで、毎日7km走り込んでこの合宿に臨んだ。私がそういうことを大事にする監督だということを知っているはずなのに、正月合宿は厳しいぞということを知っているはずなのに、今年的主力選手たちは手抜きして正月合宿に臨んだ。

これは、私に対する侮辱のみならず、鶴のマークに対する侮辱であり、先輩たちが築き上げてきた業績に対する侮辱である。だがこれに腹を立てて報復、たとえば地獄の練習とかビンタ張りまわしなどで恐怖政治を敷いても選手たちは変わりはない。自覚が芽生えるまで根気強く訓育するしかないのである。保護者の方々には、自分のこどもの現状がこうだということをしつかり認識しておいていただきたい。

平成二一年〇一月 九州春季大会二次予選ベスト八 スタメン仲野② 小田② 小佐々② 一瀬② 泉田①

【案内文書】

十一月の県新人戦ではなんとかベスト四に食らいつきました。今のチーム力からしてよくやったと思います。この時、選手たちは私から誉められるのではなく、自分たちのことを自分で「よく踏ん張った」誉めなければなりませんでした。スポーツ活動は、弱いからダメ、強いから立派というものではありません。強くてもダメなチームはたくさんあるし、弱くても立派なチームもまたたくさんあります。ダメとか立派というのは、その選手たちがどんな思いをもって日々の練習に取り組んでいるかによって決まります。

どんな思いで…の原点は「自分を誉める」「自分を叱る」です。自分を誉めることができない選手は自分を叱ることもできないし、そんな選手からはチームメートの不安を少しでも引き取ってやりたいという気持ちには湧いてきませんし、チームメートとともに喜びを分かち合いたいという気持ちも湧いて来ませんし、先輩たちの業績を後輩に引き継ぎたいという気持ちも湧いてきません。

私は、正月の招待合宿で選手たちの思いの浅さを感じたので、合宿明けからオフの日をゼロにしました。それまでの土日は午前か午後の半日練習か、土日のどちらかがオフという日が多かったのですが、合宿後はそれらを撤廃し、すべて午前午後の二部練習にしました。

でも、この措置は選手たちの思いの浅さに対する報復措置ではありません。怒りが出発点となるハードトレーニングは選手に辛い思いをさせるだけです。ですからオフなしの練習は、スクリーンのかけ方やプレイの組み立て方などの指導は皆無に等しく、今やろうとしているプレイへの思いと、今やったプレイへの思いについて焦点が絞られます。

それをこれから延々と続けていくわけですが、その効果が今回の試合に現れることはほとんどないでしょう。なぜなら、思いのレベルを上げるといえるのは気が遠くなるほど根気が要る仕事ですし、気が遠くなるほど時間がかかる作業だからです。

ウィンターカップの結果報告をご覧になった方から「ウィンターカップお疲れさまでした。また指導を始められたんですね」と言われました。彼は、私が県協会の理事長職を引き受けていることや、短大在籍していることで、コーチ業は一線から引いたと思っておられたようです。冗談じゃない。私は県協会理事長や県の競技力向上対策委員や短大幼児教育学科の教師などいくつかの役職を持っていますが、私の最優先事項は今も昔も現役コーチです。二年続けてインターハイにもウィンターカップにも出られなかったのは主力選手の相次ぐケガで選手がいなかったからであって、私が前述の役職の仕事に忙殺されてバスケットボールの指導から遠ざかっていたからではありません。

【結果報告】

九月から指導に関わっている高城台ミニバスのこどもたちが試合を観に来てくれました。試合に負けたあと、体育館の玄関でバツタリT君と会ったからそのことがわかったのですが、T君は私と目が会うなり「惜しかったね」と言い、ニコツと笑顔を作ってくれました。あどけない表情の中に負けチームの監督に対する気配りを感じました。おとながこどもに気を使わせるようではダメですね。

「なーんだよ、負けちゃったじゃない」と言われた方が気が楽だったと思います。そしたら私は「そう言うなよ、こどもには分からない事情がいろいろあるんだよ」とかなんとか言っておまかしたでしょう。T君の「惜しかったね」の笑顔はかえって私の心臓をえぐりました。

この試合の案内文書で私は「思いのレベル」のことについて述べました。試合後、選手たちの言動でまたその続きを二つ話さなければならなくなりました。内容は述べません。これを読む方々が参考事例としてとらえる人ばかりならいいのですが、選手非難と受け取る人もいると思うからです。また、誤解されないように付け加えますが決して説教ではありません。ほんの五分ぐらいの時間をとって思いの深さについて三年生も含めた全員に話をしたのです。

今年黒星が多いことは全然気になりませんし、弱いから諦めているわけでもありません。私は、高校のスポーツ活動のキーワードは「思いを繋ぐ」だと思っています。選手リクルートがうまくいかない時もありますし、ケガ人が続出する時もあります。そんな時はなかなか勝てません。それでも、先輩の思いを後輩に繋ごうと思いつきながらやり続けていけば、負けても観る人の心を打つ試合ができるだろうし、将来自分のこどもに語ってやれる思い出を作ることができるだろうと思うのです。

優勝したとか一回戦で負けたというのは思いを繋ぐリレーの中の一つの現象にすぎないのであって、思いを繋ぐリレーの輪から外れずに、その輪の中に居さえすればそれだけでその選手にとって部活動は人生の大切なひとコマになると思います。そんなチームを作り続けていきたいと思えます。

【後日談】

九州春季二次予選大会の一回戦で負けた後の選手たちの態度は鶴鳴の屋台骨が白アリで崩れかけていることを臭わせるものだった。当時はブログにもUPせず、保護者宛の報告書でしか述べなかつたが、もう時効だと思うので若い指導者の参考になると思い、ここで（平成二五年四月五日）述べることにした。

保護者各位

十七日の試合は九時半開始でした。その後鶴鳴は十二時半開始の男子の試合のオフィシャルをやることになっていました。そのあと三時半から決勝リーグの一発目を長崎商業とやる予定だったので、一回戦で明誠に負けたのでその試合も翌日の試合もなくなりました。

明誠に負けた後、マネージャーが「オフィシャルは市内生でやります」と報告にきました。そして「オフィシャルが終わったら市内生は帰っていいでしょうか」と言いました。そのそばで寮生の二年生が「先生、クルマは何時に出発しますか」と私に聞きました。私は「そりゃないだろう。女子の最後の試合を見終わってからだよ」と言いました。そして、オフィシャルが終わってから五分ほど、玄関の外で三年生を含めた全員を集めて次のような話をしました。

―試合に負けたあと、お前（マネージャー）が「オフィシャルは市内生がやります」と言ったのは、あとの試合がなくなったので俺が怒ってさっさとバスで短大に帰るかもしれないし、寮生（短大内にある部活生用の寮）はいつも俺のバスで送迎してもらっているのでそう言ったのだろう。そしてお前（寮の二年生）が「先生、クルマは何時に出発しますか」と聞いたのも同じ意味だろう。

だけども、たとえ俺が怒って早く帰るかもしれないと思っただけでも、「先生、私たちは最後の試合を観てから帰ります」と言うべきだっただろう。ましてやお前（マネージャー）が言った「オフィシャルが終わったら市内生は帰っていいでしょうか」というセリフはとんでもないよ。

なぜなら、「自分たちは弱い。だからなんとかしなければ」と思っているなら、次に対戦するかもしれないチームがこれから試合をするんだから観戦して研究し、次に対戦する時の対策を練るのが当然だろう。そ

れを、午後の試合がなくなったのだから「学校に戻って練習しますか？」と聞くのならまだしも、「オフイ
ヤルが終わったら帰っていいですか」とはあまりにも情けなさ過ぎるぞ。

これは、そのセリフを言ったマネージャーが気が利かないのではない。みんながその程度のレベルだとい
うことだ。マネージャーはみんなに「聞いてきてよ」と言われたから俺に聞きに來ただけだから――

二 ジェysonライト

夏休みにアメリカ遠征（ロスアンジェルズ）をした時に、私たちの世話をしてくれたライル・ホンダ氏か
ら「ロスにジェysonライトというバスケットのレッスンプロがいるけどそこで合宿するのも面白いよ」と
紹介された。日本に帰ってからジェysonライトのことについていろいろ調べたが、彼は自分の体育館を持
ち、数人のスタッフを抱えてロスアンジェルズを基点にしてNBAの選手から三歳児まで幅広く、バスケッ
トの指導をしているレッスンプロだということがわかった。

さらに調べていくと、彼はアジアではまだ中国にしか行ったことがないがヨーロッパはあちこちの国に出
かけてレッスンをしているということもわかった。

彼のホームページではアメリカ国内で彼のレッスンを受ける場合は受講料が約七五ドルだと書いてある。
アメリカでのキャンプやクリニックははだいた二泊三日で基礎から簡易ゲームまでをマスターさせるのが
通例となっており、七五ドルはその受講料である。日本にも呼びたいけど、宿泊を伴ったクリニックスタイ
ルはシーズンオフのない日本のスポーツ事情の中では母体チームの活動に支障をきたすし、ジェysonの飛
行機代やホテル代を考えるととても呼べないと半ばあきらめていた。しかし、GUYが何回も交渉を試みた
ところ「日本には興味があるので、飛行機代は要らないよ」という返事を貰った。こんなおいしい話はない。
そこでさっそく彼を日本に呼ぼうという話になった。

やり方は、一レッスン二時間、長崎県内の数ヶ所で行うという計画を立てた。希望者がどれくらいある
かにもよるが範囲を拡げて九州各県も回って約一週間ぐらいやりたいと思いい、経費を試算してみた。彼は飛
行機代は要らないと言ってるが、彼の滞在費といくらかのレッスンは捻出してやらなければならぬだろ
うと思いい、受講者一人当たり一レッスン千円から二千円の受講料でどうだろうという案をまとめ、GUYを
通してジェysonに相談してもらった。すると彼は二つ返事でOKを出してくれた。私は各方面と連絡を取
りながら早速要項を作成した。

ジェysonライトクリニック詳細（平成二十二年二月十七日時点）

- 一 集合 開始三〇分前にはブレイできる服装で体育館に集まってください。
- 二 服装 通常の練習用服装で構いませんが、日常使っているビブスがあれば持ってきてください。
- 三 携行品 各自ボールを一個持ってきてください。ただし、人数分ボールがないチームは二人で一個でも
構いません。
- 四 参加費 一セッション五〇人未満は一人二千円、五〇人以上一〇〇人未満は一人千円、当日受付で係に
お支払いください。チームでまとめて責任者が払っても構いません。ギャラリーからの見学や
引率コーチは無料です。

五 撮影 受講者有料事業ですから、見学や引率の方のビデオ撮影は厳禁とします。

六 期 日

二月二一日（土）セッション一 ○九時三〇分〜十一時三〇分 於 鶴鳴

受講者 鶴鳴十五、滑石中女十八、三重中男十三女十二

担当者 山崎純男（鶴鳴）

セッション二 十三時〇〇分〜一五時〇〇分 於 淵中学校 淵中学校男二五女三一

担当者 亀川愛子(淵中)

セッション三 十六時〇〇分〜十八時〇〇分 於 時津小学校 時津地区小学校男女七八
担当者 内村(時津小女子外部コーチ)

二月二二日(日) セッション一 〇八時三〇分〜一〇時三〇分 於 桜ヶ丘小学校 長崎市内ミニ一〇三
セッション二 十一時三〇分〜十三時三〇分 於 桜ヶ丘小学校 長崎市内ミニ一〇二
セッション三 十四時三〇分〜十六時三十分 於 桜ヶ丘小学校 長崎市内ミニ一〇九
担当者 坂本陽一(諏訪小学校)

二月二三日(月) ジェイソン市内観光 案内担当 西澤 昭(長崎大学教授)

二月二四日(火) セッション二 十六時三〇分〜十八時三〇分 於 広島皆実高校 広島市内小学生九六
セッション三 十九時〇〇分〜二一時〇〇分 於 広島皆実高校 広島市内高校生八一
担当者 村井幸太郎(広島皆実高校)

二月二五日(水) セッション三 十七時三〇分〜十九時三〇分 於 宇部中央高校 山口県小中高九〇
担当者 村谷 勉

二月二六日(木)

ジェイソン太宰府近辺観光 案内担当 山崎純男

二月二七日(金) セッション二 十七時〇〇分〜一九時〇〇分 於 小ヶ倉中学校

小ヶ倉・戸町・土井首・仁田・金比良・他小学生七〇

セッション三 十九時三〇分〜二一時三〇分 於 小ヶ倉中学校

小ヶ倉・式見・福田・光海・他中高生一〇〇

担当者 三根正美(小ヶ倉中学校)

二月二八日(土) セッション一 〇九時〇〇分〜十一時〇〇分 於 城山小学校 城山小学校男十五女二〇

担当者 宮本俊之(城山小学校コーチ)

セッション二 十三時〇〇分〜一五時〇〇分 於 飯盛町体育館 諫早地区中学生約八〇

担当者 前田(西諫早中学校)

三月〇一日(日) セッション一 〇九時三〇分〜十一時三〇分 於 西浦上中学校

西浦上男二〇 桜馬場男二〇 横尾女十一 山里女十七 附属女十七

担当者 野口(西浦上中学校)

セッション二 十三時〇〇分〜十五時〇〇分 於 橘小学校

高城台小男女十七 橘小男女二〇 高尾小女五 山里小男八

担当者 板倉(高城台小学校)

一月十三日ブログより

ジェイソンライトクリニックに申込みグループを結成できないけど個人で申し込みたい方は山崎までお問い合わせください。どこかに組み込みます。また、レイカーズのアシスタントコーチであるジムクレメンスがジェイソンに「俺も日本でクリニックしてみたい。シーズンが終わったあとの六月中旬から下旬にまた日本でお前クリニックやれないか?それが可能ならば俺もその時一緒にいきたい」と言ってるそうです。どうしましょ。

一月十八日ブログより

ジムクレメンスが六月中旬から下旬に日本に行きたいと言ったらいいということ十三日のこの欄でお知らせしましたが、その後七月中旬から下旬に変わったそうです。そして、その感触がよければ来年夏にNB A選手を何人か連れて来ようかなあと言ってるそうです。が、まだ実現可能かどうかはわかりません。

クリニック収入はアメリカで実施する方が高いはずなのにどうしてアメリカのコーチが日本に来たがるのかなあと思って、幼少の時期をロスで過ごし、今も医学の研修でしばしばアメリカに出かけている大学病院整形外科の宮本医師に聞いてみたら、「多分今アメリカのスポーツ界はアジアマーケットに注目してるから

じゃないでしょうかねえ」という答えが返ってきました。

―二月二一日ブログより―

昨日はジェイソンをJR九州ホテルに迎えに行き、ちよつとした市内観光をさせました。今日はクリニックスの初日。アメリカでのクリニックスやキャンプは、前述のようにだいたい二泊三日ぐらいで基礎から簡易ゲームまでをマスターさせるのが通例で、今回のように二時間だけのセッションというのは内容を何かひとつに絞らなければできません。ジェイソンも「もう少し時間くれないか」といいましたが、次の会場に移動しなければならぬのでそれは無理。というわけで今回のセッションはダブル中心のメニューだけとし、次回(七月?)にはもう少し考えます。

―二月二八日ブログより―

午前中の会場は城山小学校。宿直明けの宮本医師が駆けつけてくれて通訳をしてくれました。午後の会場は飯盛体育館。NCCの取材がありました。これは三月二日の午後六時半放映だそうです。夜は諫早少年自然の家で行われた山崎浜口ジョイントクリニックスにジェイソンと慎子がサプライズの特別出演で顔を出してくれて盛り上がりました。

―三月〇一日ブログより―

今日は高校の卒業式。なので午前中の西浦上中学校でのクリニックスはジェイソンと慎子とGUYにお願いしました。午後、橘小学校で行われた最終クリニックスには顔を出すことができて締めくくりをしました。ところで今日は睡眠不足です。このところ連続して続いた深夜作業のせいだけではなく、昨夜足がつって四回も目を覚ましてしまったからです。

足がつった理由は、このシリーズずっとジェイソンのディフェンスフットワークの相手を務めてきて私の足がいつぱいいつぱいだったからです。しかも、夜中だけではなくそれが卒業式の最中にも起きてしまいました。練習中ならつった足をストレッチさせて治せますが、式の最中ではそれができません。椅子に座ったままじつと痛みが去っていくのを待つだけでした。午後、ジェイソンに「足がつったのはお前のせいだぞ!」と言ったらジェイソンは笑い転げていました。

―三月〇二日ブログより―

朝六時三〇分、JR九州ホテルからジェイソンを送り出しました。二七日の朝、彼は風邪を引いて最悪のコンディション。最終日まで持つかなああと思っていたのですが翌二八日には回復し、無事予定の計画はすべて実施することができました。最終的に一二五名の受講者でした。お世話をいただいた方々に感謝いたします。

―三月〇九日ブログより―

ジェイソンが帰国した後御礼のメールを送ったら返事がきました。七月中旬か下旬にジェイソンがジムクレメンスを連れて再来日します。GUYと私は宇部でのクリニックスの帰りに宗像のグロバルアリーナに立ち寄って会場の下見をしてきました。今回のように小中高生だけの集団クリニックスだけではもったいないのでいろんなパターンを検討中です。

それは場所も含めてのことです。何かいいアイデアや要望があればお知らせください。

HELLO COACH!!!

It is so good to hear from you. I just wanted to say THANK YOU for being so kind a generous to me.

I had a great time. You are the greatest. I am looking forward to coming back out there in July. I have talked to Coach Clemmons and told him how great the trip was. He is looking forward to it as well.

I look up to and hopefully I can be as great as you one day. While I was there I had thought of how I was going to be 30 years from now and you were that image. Thank you for being a great role model for me as well. I appreciate and respect your kindness, thoughts, well being, comedy and commitment towards life and the sport of basketball. If there is anything I can do for you out here please feel free to ask me. Tell everyone I said hello and I miss them.

Sincerely and Respectfully,

Jason Wright

【遠征合宿】於 J O M O

平成二二年〇三月二八日～三〇日 対戦

松戸聖徳・宮崎小林・徳島城北・帯広南商業・盛岡白百合
札幌創成・倉敷翠松

試合数 十五本(二〇分×十四 一〇分×一)

勝敗 一勝十四敗

出場時間 仲野二〇分・一瀬〇分・赤島咲〇分

岸上藤一五九分・岸上桜一四二分・赤島美一五六分

長田一七一分・上村九八分・福井二六〇分

酒井二七一分・松尾二〇一分・小林二二分

【遠征合宿】於 徳島城北

平成二二年〇四月〇一日～〇二日 対戦

徳島城北・札幌創成・広島皆実・福井商業・新居浜商業
香川英明

試合数 十一本(二〇分×九 一〇分×二)

勝敗 〇勝十一敗

出場時間 仲野〇分・一瀬〇分・赤島咲〇分

岸上藤五八分・岸上桜二四分・赤島美三四分

長田一五一分・上村二九分・福井一三二分

酒井一七七分・松尾一二八分・小林一六九分

コメント(J O M O & 徳島)

小田と小佐々が辞めたので、遠征に出かけるようなチームではない。こんなチームを連れて行くのは相手チームにとっても失礼なので今回の遠征はお断りしたが、J O M Oからも徳島からどうしても参加してほしいと言われて参加した。

申し訳ないのは弱いからだけではない。新三年生の主力である小田と小佐々が辞めれば新三年生と新二年生には戦力になる選手がいない。だから、まだ入学式も終えていない新入生がスタメンで、ベンチメンバーもほとんど新入生(青文字)という布陣で、相手の主力選手と戦わなければならない。それがまた申し訳なかった。

この合宿は、新三年生にリードしてもらいながら新入生に試合のやり方を覚えて貰おうと思っていたが、それは最初の二本だけでやめた。そんなやり方で一つか二つ勝ち星が増えても、高校総体やウィンターカップ予選に向けての戦力強化には何の足しにもならない。そう思ったからだ。

新入生というのは今年に限らず、行動のすべてにおいて気が利かないし、気配りが足りないし、自己チェックが甘いので導くのに非常に手間がかかる。しかし今年の新入生は「まだ見習い期間だから…」などと悠長なことは言ってもらえない。新入生の中から数人は六月の高校総体では主力選手として働いて貰わなければならないのだ。

そこで少々過酷ではあったが、自分の甘さが導く結果の悲惨さにイヤというほど打ちのめされた方がよいと思って残りの二四本をやり抜いた。そういう状況の中で、二九日の三本目に勝ち取った白星は彼女らの人生にとってとても大きく大きな財産だと思う。もつともそれがどれほどすごいことであるかということを感じているのは私だけで、彼女ら自身気付いていないかもしれないが…。

三 N I D U S (ナイダス)

平成二二年四月六日。マネージャーの後藤由佳が倒れた。二年生に進級したばかりだった。その日は春休

み練習の後半、二部練習の午前の部の終了間際だった。選手たちは最後のシューティングなのでマネージャーがコートの中で忙しく動き回る仕事はない。私も午前中の最終メニューのシューティングだけとなったので協会の仕事を一件片付けるために県庁に出かけた。以下は、選手から聞いたその場の状況と、対応をしてくれた陸上部監督の林田先生から聞いた話によるその場の再現である。

後藤はコートの中を走り回る仕事がなくなったので脇で洗濯物の始末をしていた。と、突然シューティングをしているA選手に「右手が動かない」と言いながら近づいてきた。A選手が戸惑っている間に彼女は寄りかかってきて意識朦朧となった。周囲に居て異変に気付いた数人の選手が集まってきて彼女を隅に移動させて寝かせた。寝かされた本人は髪の毛をむしりながらもがき始めた。

私は選手が練習中に倒れることには慣れている。過換気症候群が一番多いが、血糖値低下だったり貧血だったり熱中症だったりといろんなケースを経験している。もともと手こずったのがヒステリーである。林田先生の説明を聞きながら私はそのことがちよつとよぎった。だが、林田先生の話では救急車で駆けつけた救急隊員もヒステリーを疑ってその兆候を調べたがその兆候はないと言ったということだった。

林田先生が「これは普通じゃないですよ」と付け加えたのは、救急車で搬送する前に後藤が失禁していたからだだった。私は、もう四〇年以上も前のことだが兄嫁が脳内出血で倒れた際に面倒をみたことがあるが、その時の状況を一瞬思い出した。兄嫁は市民病院に救急車で搬送され、ただちに頭部CT検査を受けたがその画像には鶏のタマゴぐらいの出血がくつきりと映っていた。後藤の失禁のことを聞いて私は、兄嫁が倒れた時と後藤が倒れた時の状況の違いをイメージの中で見つけ出そうとしていた。

私は県庁から後藤の搬送先の十善会病院に駆けつけて救急外来の待合い室で診断結果を待っていた。やがて後藤の両親が駆けつけ、三人で待っていたが間もなく医師が「説明をします」と言って処置室から出てきた。両親と私は診察室に入った。パソコンの画面には脳内出血の画像がくつきりと映し出されていた。

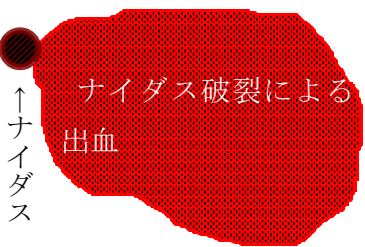
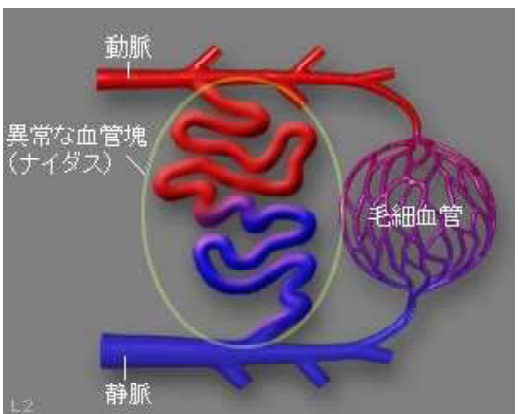
後藤の出血の大きさは兄嫁よりも少し小さく3cm×4cmぐらいだった。ただ兄嫁の出血と違っていたのは大きな出血範囲の端っこに小さな小豆粒大のかたまりがあることだった。医師はそこかたまりのことをナイダスだと説明した。ナイダスとは日本語で脳動静脈奇形のことである。

それは、脳の中で異常な動脈と静脈が毛細血管を介さず直接つながっている状態の奇形である。胎児（約三週間）の時期に、血管は動脈・毛細血管・静脈に分かれるが、この時期に発生する先天性異常である。しかし、ナイダスは遺伝する病気ではない。

動脈と静脈が直接つながっているため、ナイダスの部分では血液が異常に速く流れている。また、正常な血管に比べて壁が薄くて破れやすい。破れると脳出血、クモ膜下出血を生じ、そのために死亡したり、重い後遺症を残すことがある。破れてからナイダスとわかる場合と、破れなくてもけいれんや手足の麻痺で見つかったり、偶然に検査などで見つかることもある。

ナイダスは、脳のどこにでも発生する。全体の八〇%〜八五%が大腦で発生し、片側の大脳半球の脳表面に偏在することが多いようである。ナイダスの出血の好発年齢は二〇〜四〇歳代で、二対一の割合で男性の方が多いと報告されている。

医師は、ナイダスの説明と出血部位及びその影響を説明してくれたが、説明のことばの中で再三「出血は現在止まっているのでこれ以上広がることはないと思います」を強調し、「快復後のリハビリ」ということばをしばしば使っていた。私はそのことばを後藤の両親の絶望感を和らげるための心理面のケアと受け取っていた。



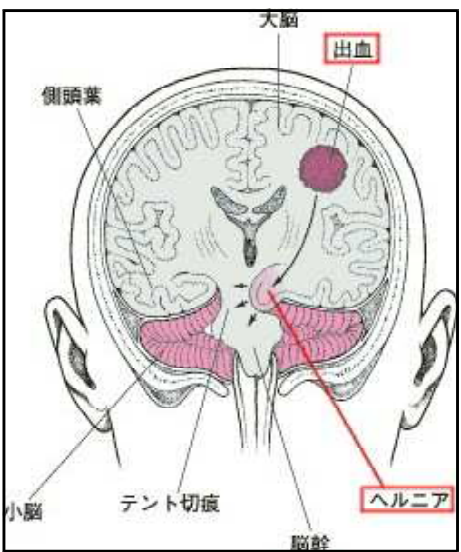
四〇年前、兄嫁を市民病院に搬送し、CT画像を見たあと、市民病院の屋上に兄を連れて行き、「義姉はもう戻ってこない。その時にうろたえない心構えを今から作っておけ」と私は言った。兄嫁は市民病院に搬送されてから三日後にこの世を去った。そのことが後藤のCT画像と重なって拭い去れなかったのである。容態が落ち着いたので家に帰った後藤の両親は、その夜病院から連絡があり再び十善会病院に出かけた。呼び出された理由は、呼吸が停止して自発呼吸が出来なくなったので人工呼吸器を使うということだった。自発呼吸がなくなった理由は脳ヘルニアによるものだった。

そのメカニズムを説明する。脳内の出血や腫れによって、脳を頭蓋の下方へ押し下げる圧力が生じる。その結果、脳を上下左右に仕切っている比較的硬いシート状の組織の小さな開口部から、脳の組織が外へ押し出されてヘルニアが起る（この仕切りは、脳を覆う硬膜が拡張したものである）。

最も多いヘルニアがテント切痕ヘルニアで、側頭葉の一部が、テント切痕と呼ばれる側頭葉と小脳を仕切る層の開口部から押し出されるタイプである。

後藤の場合、ナイダス破裂による出血が、テント切痕ヘルニアを生じさせ、脳幹を圧迫して呼吸停止に至らしたのではないかと思われる。やはり…悲しいが私の予感当たった。

兄嫁は三日後にこの夜を去ったが後藤は人工呼吸器を外すことはできなかったが一ヶ月以上がんばった。しかし、五月に入ってから状態は次第に悪くなり、五月十五日にこの世を去った。コーチ歴四七年目。半世紀近くもコーチをしていれば、勝ち負けだけではなささまざまな出来事に遭遇する。だから事件には免疫ができてはいるはずだが、この出来事は私を打ちのめすのに充分過ぎる出来事で、立ち直るのにずいぶん時間がかかった。



平成二一年〇四月 県下春季選手権 ベスト八 スタメン 仲野③ 長田① 福井① 酒井① 松尾①

【案内文書】

エントリーメンバーの数が十五人の試合で、誰を入れて誰を切ろうかと悩んだ事はこれまでありません。ところが今回は一月からずっと悩み続けました。今回のエントリー三年生三名、二年生三名、新入生九名以外に、ケガが治れば間違いなくエントリーされる選手が二人控えています。しかも、エントリー数が十二の試合になるとその十七人の中から五人落とさなければならなくなるのです。

今回の試合のエントリーだけでなく、遠い先の事まで考え、今試合に出してやらなければ将来エントリーしてやる可能性はないと思ってエントリーする選手や、この選手は将来チームの核になってもらわなければならないから上級生には気の毒だがエントリーから外せないと思って起用する新入生等々、私の頭の中では様々なパターンが描かれては消え、描かれては消え、脳がグチャグチャになりそうです。

さて試合の予測ですが、メンバー表を見ておわかりのように新入生がずらっと並んでいます。彼女たちは将来性でエントリーされたものではありません。上級生も含めた戦力分析の結果、立派な戦力としてエントリーされた選手たちです。これから先の私の大きな仕事は、重要な戦力の選手ばかりに目を向ける事なく、上級生も新入生も含めて、チーム内の競争の中で置いて行かれそうな選手や挫折しそうな選手を見落とさず、一人の落伍者も出さないで、「この仲間と一緒にやれてよかった」という思いを持たせて卒業させることです。今、教師になって二年目の頃を思い出しています。あの時は六〇人の部員を抱えて毎日溺れそうになっていました。

【結果報告】

初日

おつかれさまっ！新入生にとっては心臓バクバク、自分が何をしたかも覚えていない。そんな試合だった

でしょう。でも、大崩れせずよく持ち堪えてくれました。三年生の二人を新入生が落ち着くまでは牽引車としてコートに置きましたが、他の二・三年生には出番を回してやれませんでした。新入生に少しでも多く高校生としての公式戦の感触を味わってもらいたかったからです。

案内文書でも述べましたが、重要な戦力の選手ばかりに目を向けることなく、上級生も新入生も含めて、チーム内の競争に置いて行かれそうな選手や挫折しそうな選手を見落とさず、一人の落伍者も出さないで、「この仲間と一緒にやれてよかった」という思いを持って卒業させるという気持ちに変わりはありません。

二日目

純心には最初から胸を貸してもらおうつもりでしたが、そこに辿り着くまでの試合でも何が起こるかかわからないのでハラハラドキドキでした。選手交替もタイムアウトの指示も、この大会終了後の練習に有効に活かさなければならぬのでとても気を使いました。特にタイムアウトで喋ることは項目を一つに絞り、分かり易いことばで説明するよう心がけました。大敗でしたが憂慮はしていません。

新入生たちはパスもドリブルもシュートも下手ではありません。ただ、それを使う場面やタイミングが分かっていないのと、自分がやったことに思いが残らないからこんな試合になってしまふのです。プレイというのは「やる」だけではダメです。「やめる」「強引にやってみよう」「それ以上無理しない」「そこまでやったのなら無理矢理やり続ける」「タイミングを変える」「距離を測る」「逃げる」等々を理解した上で「やる」のが重要です。これらのことをこれから繰り返し繰り返し教え込んでいこうと思います。

【戦評―純心戦】

鶴鳴が互角に戦えたのは第一ピリオドだけ。あとは純心の一方的な試合だった。新入生ばかりの鶴鳴はひとたび歯車が狂えば修正が利かない。このメンバーで六月にはどんな戦いができるようになっていくのか、九月のウィンターカップ予選では…、十一月の新人戦では…、楽しみでもあり不安でもある。文責 山崎

【遠征合宿】於 倉敷翠松

平成二二年〇五月〇三日～〇五日 対戦 倉敷翠松・徳島城北・福井商業・熊本慶誠・夙川学院

香川英明

試合数 十一本(二〇分×十一)

勝 敗 ○勝十一敗

出場時間 仲野二七分・一瀬二分・赤島咲〇分

岸上藤一七二分・岸上桜一三九分・赤島美〇分

長田一五九分・上村〇分・福井〇分

酒井一八五分・松尾一三九分・小林一七七分

【バルーンカップ】於 佐賀致遠館

平成二二年〇五月〇九日～一〇日 対戦 佐賀北・宮崎小林・致遠館・佐賀清和

試合数 四本(フルゲーム×四)

勝 敗 一勝三敗

出場時間 仲野三四分・一瀬〇分・赤島咲〇分・泉田一一六分

岸上藤一二二分・岸上桜九八分・赤島美〇分

長田六四分・上村〇分・福井一四二分

酒井一四三分・小林一七七分

コメント(倉敷&佐賀)

三月下旬のJOMO合宿、四月上旬の徳島合宿、五月連休の倉敷合宿、そして佐賀バルーンカップ、今年是一年生(青文字)主体なので弱いとわかっているのに招待を受けます。有り難いことです。このご厚意に報いるには一刻も早く皆様から「鶴鳴の試合だって、観に行ってみようか」と言ってもらえるチームになる

こと以外ありません。

ですから今年の土日はいつも午前午後の二部練習で、午後は一時から六時までやります。平常の練習は月火（六時限授業だから三時四〇分からできる）でも、水木金と同じく七時一〇分までやります。私の持論だった「一セクション三時間以上の練習はしない」という考えは簡単に破棄してしまいました。練習内容は体力や技術の向上を目指すというよりも、バスケットボールというものを理解させる、いや、人としての在り方を分らせるのが主体です。時間がかかります。

ハードトレーニングでは選手の思いは深まりません。かといって、精神訓話を長々としても選手の心は育ちません。プレイも社会の出来事も、適切な事例を取り上げ、適切で短いアドバイスを加えて選手に返す。その繰り返しです。気が狂いそうになるほど根気が要る仕事です。

平成二十一年〇六月 県高校総体ベスト八 スタメン 仲野③ 岸上藤① 福井つ① 酒井① 小林①

【案内文書】

春休みからずっと一日も休みはありません。それはこれからも続きます。一年生が多いので教えなければならぬこと、というより気付けなければならぬことが多すぎるからです。新入生が入ってきてから三月下旬のJOMO遠征、四月上旬の徳島遠征、ゴールデンウィークの倉敷遠征、それに五月のブルーノカップと、四度の強化試合をしました。毎年恒例とはいえず、今年の鶴鳴は弱いと知っていたながら声をかけてくださったJOMOの内海監督、城北の富田先生、翠松の平松先生、清和の貞松先生に感謝いたします。

さてこの春の四回の強化試合ですが、すべてが有効だったというわけではありません。折角ご招待いただいたのに主力選手が直前にケガをしたのでベストメンバーで戦えない強化試合があったり、戦力として計算していた選手の意外な弱点が見つかって予定していたローテーションが狂ったり、これから育てようとしていた選手が辞めてしまつて構想を組み替えなければならなくなったりなど、さまざまなことが起きていまだにハツキリしたスタメンは定まっています。

春季選手権の案内文書に「これから先の私の大きな仕事は、重要な戦力の選手ばかりに目を向けず、チーム内の競争の中で置いて行かれそうな選手や挫折しそうな選手を見落とさないで、一人の落伍者も出さなずに『この仲間と一緒にやれてよかった』という思いを持たせて卒業させることです」と書きましたが、早くも退部者が二人も出ました。事はすんなり運びません。

昔のように無茶はしないので、選手が体力的に追い込まれることはないと思いますが、人としての在り方については厳しく追求するので精神的に追い込まれる選手は出るかもしれません。しかし、それを緩めるとお友達ごっこになってしまうので、それは部活動指導の生命線として私は譲れません。

その、人としての在り方の指導に加えて技術指導のことでコート上ではこのところ毎日私と福井つぐみの死闘が続いています。彼女は運動能力が高いので反射的に身体が動いてしまいます。ですから私が技術のポイントを指導しても、その直後にまったく私の指導を無視したプレイをしてしまうことがしばしばあるので、「きさまーっ」ホントに血管が切れそうです。

彼女は決して私の助言を軽視したり無視したりしているわけではないのですが、「ハイツ」と言つてコートに向かい、シマウマを見つけた途端にチーターになってしまふのです。短所をいじくりすぎるとよい結果は得られないということは重々承知していますが、彼女の身体的素質なら簡単に習得できそうなので「まあそのうち」と悠長な気分にはなれません。

【結果報告】

二日目で終わりました。予想通りです。負けた試合の感想について、監督の口から「予想通り」ということばを聞く選手や身内の方々はいいい気分はしないと思いますですがそれは現実です。勝負の世界に身を置いている者にとって、気合いとか、負けん気とか、克己心とか、いわゆるかけ声は何の役にも立ちません。役に立つのは、やらなければならないことを熱心にやったか、どれだけの時間をかけたか、どれだけの回数をこな

したか、という具体的な事実だけです。今の鶴鳴の選手たちをそういう基準に照らし合わせてみると「予想通り」ということばしかでてこないのです。

もちろん選手たちは自分が手を抜いているとは思っていません。やっている…つもりでいます。しかし、四六年もコーチをしている私にとっては彼女たちがやっていることはバスケットごっこ程度でしかありません。これから一刻も早く、やっていない自分に気付かせ、やったぞ！と言える自分を築きあげさせるのが私の使命だと思っています。

念のために付け加えておきます。私が言う「熱心さ」「どれだけの間」「どれだけ回数」の基準は人間の限界を超えるものでは決してありません。言い換えれば、世間でよく言われている「猛練習」ではありません。

バスケットそのものについて言えば、鶴鳴の一年生は「らしく」はなってきました。しかし、バスケットが「らしく」なっただけではダメなのです。日常生活すべてが「らしく」ならなければ勝負の世界に身を置いたとは言えません。鶴鳴のチームにはまだまだ「空気が読めない」「気配りが足りない」「ことばの意味を聴き取れない」「思いを喋れない」「確かめが足りない」などなど、解決しなければならぬ課題が山積みです。

チャンピオンを狙うアスリートから発せられるオーラは、そのアスリートの卓越した技術や並はずれた運動能力から発せられるものではなく、そこに到達するまでに数え切れないほどの難関を乗り越えた人間から発せられるオーラだと私は思うのです。コーチを続けていく限り、そんなオーラを発することのできる選手を育てていきたいと思えます。

【戦評―長崎商業戦】

長崎商業には自身満々という空気が漂っている。史上最強か？一方鶴鳴の一年生は四月に比べるとバスケットらしくなってきたが、忙しさについていけない。

三 ジムクレメンズ

二〇〇九 HOOPS FESTA 開催について(案内)

一 趣 旨 日本のバスケットボール界の意識高揚とコーチの資質向上に寄与する。

二 主 催 ガイヒーリージャパンインターナショナル

三 期 日 平成二十一年七月十九日(日)～二十八日(火)一〇日間。

四 会 場 千葉・東京・福井・徳島・長崎・福岡・鹿児島

五 講 師 ジムクレメンズ氏 ロスアンジェルスレイカーズアシスタントコーチ

ジェイソンライト氏 ロスアンジェルス在住のバスケットボール個人技能レクチャー

六 内 容

A 選手対象のクリニック 小中高校生の個人技能指導

B コーチ(一般の方や成年の部の選手等幅広い層のバスケットボール関係者を含む)対象のフォーラム

- ・モデルの選手(例…中学または高校の県代表チーム等)を使いながらのチームオフフェンスやチームディフェンスの紹介(フィルジャクソンが採用するトライアングルオフフェンス等を含む)。
- ・ジェイソンライトショー(ボールハンドリングやドリブルなどの個人技の紹介)
- ・ジムクレメンズ氏による講義(チーム作りに関することなど)
- ・ガイヒーリーによるジムクレメンズ氏へのインタビュー(アメリカでのコーチ生活のエピソードやマイケルジョーダンやコービーブライアントに関する裏話など)や参加者からの質問。

七 参加料

①Aの選手対象のクリニックは、一セッション二〇〇人で締め切ります。一人三〇〇〇円。

②Bのコーチその他対象のフォーラムはひとり五〇〇〇円。一〇〇人以上の参加を求めますが、上限は決めません。フォーラムでモデルになってくれる選手の参加料は不要です。

八 申し込み及び問い合わせ(細かい部分や時間配分の調整が終了したので申込締切を七月十六日とします)

長崎 山崎 純男(鶴鳴)

東京 大野 慎子(柏リーブス)

千葉 岩本先生(市立松戸高校)

福井 林先生(福井商業高校)

徳島 富田先生(城北高校)

福岡 石田さん(グローバルアリーナ)

鹿児島 小野さん(株スポーツフロンティア鹿児島)

九 告知 月間バスケットボール(日本文化出版)

バスケットボールライフ

NBC長崎放送局

開催地でのプレスカンファレンス

十 期 日

七月十九日(日) 開催地 千葉市 於 順天堂大学

セッション一 〇九時〇〇分〜十一時三〇分

小中高生対象のクリニックとイベント

セッション二 十三時〇〇分〜十五時三〇分

コーチ対象フォーラム

七月二〇日(祭) 開催地 福井市 於 福井県立大学

セッション一 一〇時〇〇分〜十二時〇〇分

小中高生対象のクリニックとイベント

セッション二 十四時〇〇分〜十七時〇〇分

コーチ対象フォーラム

七月二一日(火) 開催地 徳島市 於 城北高校

セッション二 一四時〇〇分〜十八時〇〇分

小中高生対象のクリニックとイベント

セッション四 十九時〇〇分〜二一時〇〇分

コーチ対象フォーラム

七月二二日(水) 開催地 長崎市 於 鶴鳴(第二体育館)

セッション三 十七時〇〇分〜十九時〇〇分

高校生モデルを使ったコーチ研修

セッション四 十九時〇〇分〜二一時〇〇分

コーチ研修(座学及びQ&A)

七月二三日(木) 開催地 長崎市 於 山里小学校

セッション一 〇八時〇〇分〜十時〇〇分

小学生対象のクリニックとイベント

セッション二 十時三〇分〜十二時三〇分

小学生対象のクリニックとイベント

於 長崎商業高等学校

セッション三 十四時〇〇分〜十六時〇〇分

中学生対象のクリニックとイベント

セッション四 十六時〇〇分〜十八時〇〇分

高校生対象のクリニックとイベント

七月二四日(金) 開催地 川内市 於 サンアリーナ川内

セッション三 十六時〇〇分〜二〇時〇〇分

コーチ対象フォーラムと小学生バスケット

ト ボール塾

七月二五日(土) 開催地 東京都 於 ミズノフットサルプラザ味の素スタジアム

セッション三 十五時〇〇分〜十九時〇〇分 小中高生対象クリニックとイベント

七月二六日(日) 開催地 東京都 於 ミズノフットサルプラザ千住

セッション四 十九時〇〇分〜二二時〇〇分 コーチ及び一般対象のクリニック

七月二七日(月) 開催地 宗像市 於 グローバルアリーナ

セッション四 十九時〇〇分〜二二時〇〇分 コーチ対象のフォーラム

七月二八日(火) 開催地 宗像市 於 グローバルアリーナ

セッション一 ○九時〇〇分〜十五時〇〇分 小中高校生対象クリニックとイベント

セッション二 十三時〇〇分〜十五時三〇分 コーチ対象フォーラム

内容の概略。

一 イベント

・スリーポイント競争など

・バスケットボールスキルコンテストなど

・スラムダンクコンテスト(低いリングで) など

※レイカーズグッズなどの商品あり

二 選手対象クリニック ・全ての選手にジェイソンとクレメンスが実技指導をする。

三 コーチ対象フォーラム・デモンストレーションチームの練習を指導する

ジェイソンが個人技術を、クレメンスがチームオフENSEとチームディフェンスを指導する。

四 Q & A

・ジムクレメンスとのディスカッション。NBAコーチとしての裏話等。

―七月〇二二日ブログより―

HOOPS FESTIVAL IN NAGASAKI 初日。いやいや、宮本医師の通訳のうまいことうまいこと。これが今日のハイライトだった。ジムクレメンス氏についての印象。私は彼の立ち居振る舞いからすぐビルマの竖琴を思い出しました。コート上で選手に教える時以外は実に静かで控え目、彼から受ける印象はオレンジ色の布を身にまとった僧侶そのものなのです。オハイオ州立大学在学中ビッグテンカンファレンスのMVPに選ばれた頃の彼はフアイトむき出しの荒々しい男だったらしいのですが、禅の修行を始めてからこんなになったんだそうです。深い話をたくさん聞くことができました

―七月〇二三日ブログより―

HOOPS FESTIVAL IN NAGASAKI 二日目。午後は県代表レベルの高校男子から中学一年生までの階層がごちゃ混ぜだった。しかも午後三時から参加できるチームと四時からしか参加できないチームがあるという状況の中で、クリニックをうまくとりまとめたGUYの構想に今日は脱帽。

ところで、今日の午前中に私が着ていたポロシャツはウイスクンシン大学のロゴ入りのやつでした。これは一九五九年にディックベネットからもらったものですが、それを指さしてジムが「これってウイスクンシン大学だろ?」って言うから「そうだよ」といういきなりジムが人差し指で×印を作って私にウイスクンシンを指しました。

ジムはオハイオ州立大学出身なので同じビッグテンカンファレンスのウイスクンシン大学はライバル関係にあり、ジムの×印とウイスクンシンは「おまえ、俺にケンカ売る気か?」の意味なのです。クレメンスは大学を卒業して三八年も経つのにまだ指で×印を作るほどビッグテンカンファレンス所属の大学同士はライバル意識が強く、母校愛が強いのです。

「わかった。俺、午後はシャツを変えてくるから」と言っ、午後インディアナ大学(ビッグテンカンファレンスの強豪校)のシャツをわざと着て、「これでどうだ?」と言ったら「お前と一緒に写真は撮らない(もちろん彼も私も冗談ですが)」と言っ、そっぽ向きましました。裏話の紹介でした。

―七月〇二三日ブログより―

朝から三コマ連続の講義。それを終わってすぐ宗像へ向かいました。ジェイソンとジムのクリニックは午後七時開始なので充分間に合うはずだったのですが、九州道の太宰府―福岡間が土砂崩れで通行止めになっていたので鳥栖の手前から大渋滞。太宰府からは都市高速に乗って香椎で下り、国道三号線を走りましました。都市高速は迂回車両が殺到して車庫状態。グローバルアリーナにたどり着いたのが七時四七分でした。

今日の朝、無事二人を福岡空港から送り出しましたが、封筒に入れたお金をGUYがハイと言っ、ジムと

ジェイソンに渡していました。昨夜の泊まりは中洲川端のホテルオークラで、夕食はステーキ。GUYはいつもそうですが、ゲストにサービスし過ぎ。精算したら赤字だったとならなければいいのですが…。

ともあれ、十八日から始まったHOPS FESTAがこうして無事終了しました。松戸高校の岩本先生、福井商業の林先生、徳島城北の富田先生、レノヴァ鹿児島の鮫島先生と大山さん、グローバルアリーナの石田さん、そして長崎のドクター宮本兄弟、お世話になりました。ありがとうございました。

―後日談―

大学は高校と違って七月末ぎりぎりまで授業があり、それから夏休みに入る。私の最終授業が七月二十七まだったので、今回のHOPS FESTAに私が顔を出せたのは七月二日・二三日の長崎開催日と二七日・二八日の宗像開催の四回だけだった。イベントを立ち上げるとか、他人からの頼まれ事を引き受けるとか他人の世話をするというのは労力を使うのでとても疲れる。だが、それと引き換えに人脈という大きな財産を得ることができる。今回のイベントでまたひとり、アメリカのコーチに知り合いができた。

平成二十一年〇九月 ウインターカップ予選三位スタメン 仲野③ 岸上藤 ①岸上桜① 福井つ① 酒井①

【案内文書】

長崎国体まで私が現役コーチを続けるには膝のメンテナンスをしなければ保ちません。そこで八月五日両膝同時に手術しました。チームがまだまだ勝てない今しかその機会がなかったからです。鏡視下手術なので短期入院で済みます。二泊で退院してきました。

さて、退院後の八月一〇日、福井つぐみが危ういプレイを三回切り抜けたのをきっかけにチームの空気が変わりました。私は夢なら醒めないで欲しいと思いつつ観察を続けました。その後、浮き沈みはありませんが全員沈没という日がなくなつたので、八月十三日に練習スケジュールを大幅に変更しました。

四月から始まったまったくオフな日だった練習でしたが、土日はどちらも午前午後の二部練習だったのでどちらか一日だけの半日練習にし、どちらか一方をオフにしました。このスケジュールはもしまだダメな日が続くようなことがあっても変更はしません。強くなったわけではありません。まだまだ未熟者ばかりです。



でも、行動や態度に変化が現れたということは心の中にも変化が起きつつあると思つてやりたいです。また入院したらもっと変わるかしら？

【結果報告】

決勝リーグ一発目で長崎西に大差で負けました。試合後、ある方から「上級生がいる中での一年生と、一年生ばかりで戦わなければならない差なんではないかねえ…」という感想を貰いました。この意味は、六月の県高校総体から三ヶ月、もう少し伸びていると思つたが思惑が外れたという感想なのです。いろんな見方があるものだなあと思いました。

私の感想は、「四月にあんな状態だったチームがここまでたどり着いたか」であります。このチームとダブるのは長崎インターハイを迎える前年の平成十四年、キャプテン立川以下、林田・二宮・清水・成井・谷川がまだ二年生ながら主力選手として戦っていた時のことです。それはそれはひどいものでした。

長崎インターハイを迎えるにあたり、平成十五年に三年生になる選手を主体に選手募集をしたのでその時の上級生は手薄でした。結局この年はインターハイにも国体にもウインターカップにも出場することは出来ませんでした。その時のことを思うと、今年の一年生は同時点で一歩リードしていると思います。

しかし、案内文書でも述べたとおり「強くなったわけはありません。まだまだ未熟者たちばかりです。でも、行動や態度に変化が現れたということは心の中にも変化が起きつつあると思ってやりたいのです」という状況は変わりません。

今日の試合中に再三私が口にしたキーワードは「○○」と「幼稚さ」です。○○は人間の心理について話したことばですが公開はしません（罵倒ではありません）。「幼稚さ」については今後鶴鳴の選手達が乗り越える課題として意識していかなければならない最重要事項です。でも、それとて超悲観的な問題ではありませんでした。

【戦評】

長崎西の層の厚さのすごいことすごいこと。三年生だけでなく、一年生まで途切れなく戦力が続く。一方鶴鳴は一年生主体というだけでなく、試合に出せる選手が少なすぎだ。試合内容も戦評として書ける題材はなかった。

文責 山崎 純男